

東京都現代美術館

リニューアル・オープン記念展

2019年3月29日(金) - 6月16日(日)

| 企画展

百年の編み手たち - 流動する日本の近現代美術 -

Weavers of Worlds - A Century of Flux in Japanese Modern / Contemporary Art-

| コレクション展

MOTコレクション ただいま / はじめまして

MOT Collection: Pleased to meet you. New Acquisitions in recent years

東京都現代美術館は、1995年の開館から20年を経て、諸設備の改修と利便性の向上のためおよそ3年にわたる休館を挟み、2019年3月下旬にリニューアル・オープンを迎えることとなりました。

このたびリニューアル・オープンを記念して、企画展示室(3フロア)とコレクション展示室(2フロア)において2つの展覧会を企画し、美術館全館で当館コレクションを大規模にご紹介します。

当館のコレクションは、遡れば大正末年より同時代美術の展示を行ってきた上野の東京都美術館の収蔵作品およそ3000点を当館の開館を機に移管し、現在に至るまでの間に収集された2200点あまりの作品を合わせた計約5200点で構成されるものです。その特質は、それぞれの時代における突出した独自の創造に着目してきたものであり、オーソドックスな美術史の体系とは別の方向性を持っています。これら戦前と戦後を繋ぐ前衛や、今世紀の創造も視野に入れたコレクションを、当館の新たな出発のときに、全館での展示をとおして再考することは、常に同時代の創造活動と向き合ってきた当館の意味をひろく問うたいせつな試みとなるでしょう。

企画展では、これまでの展覧会や調査活動をとおして収集された作品や美術図書室等の資料体から構成されるコレクションの特質を新たな切り口から検証する展示、コレクション展では特に近年の収集作品に焦点を当て、最近新たにコレクションに加わった作品を中心としたものとなります。

百年の編み手たち —流動する日本の近現代美術—

Weavers of Worlds - A Century of Flux in Japanese Modern / Contemporary Art-

開催概要

本展は、1910年代から現在までの百年にわたる日本の美術について、編集的な視点で新旧の表現を捉えて独自の創作を展開した編み手である作家たちの実践として、当館のコレクションを核に再考するものです。

岸田劉生が活躍した大正時代から現在まで、それぞれの時代の「編み手たち」は、その時々の課題と向き合い、「日本の美術のありよう」をめぐって批評的に制作してきました。本展で試みる日本の近現代美術をめぐる語りは、揺るがぬ史観に基づくものというより、さまざまな要素の選択的な「編集」を通して主体を揺るがせつつ制作を行う作家たちの活動に着目し、その背景を探っていくものです。さらに、時代とともに変化してきた、当館が位置する木場という地域をめぐる創造も紹介します。

日本の近現代美術史のなかに点在する重要な作品群を、当館の3フロアの展示室全体を使って総覧することで、百年にわたる歴史の一側面があきらかになるでしょう。

見どころ

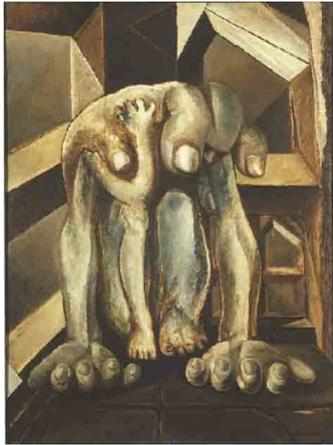
- 企画展示室3フロア全てを使って、1910年代から現在までの、当館の実験精神あふれる作品の数々を、現在の創造に繋がる視点で紹介する、初めての機会です。
- 日本の近現代の創造を、新旧の多様な表現や技術を編集し、そして社会と創造的な関係を切り結んできた「編み手たち」による試みという側面から再考します。それらからは、ハイブリッドな性格をもつ日本における創造のありようそのものを主題とする、先駆的な制作のあり方が見えてくるでしょう。
- 同時代美術の多様なあり方と伴走してきた当館のコレクションの中から、選りすぐりの作品だけでなく、図書室の創作版画誌や特別文庫など戦前からの貴重な資料を紹介します。



1. 岸田劉生《椿君に贈る自画像》1914



2. 中原實《杉の子》1947



3. 鶴岡政男《重い手》1949



4. 桂ゆき《抵抗》1952



5. 鷺嘸《田園》1956



6. 横尾忠則《腰卷お仙》(劇団状況劇場) 1966



7. 森村泰昌《肖像(少年1、2、3)》1988



8. 泉太郎《ステーキハウス》2009



9. 加藤泉《Untitled》2013

MOTコレクション ただいま / はじめまして

MOT Collection: Pleased to meet you. New Acquisitions in recent years

開催概要

東京都現代美術館では、現在、約 5200 点の作品を収蔵しています。その範囲は、戦後美術を中心に、近代から現代に至る幅広いジャンルに及んでいます。こうした収蔵作品を紹介する「MOT コレクション」展では、会期ごとに様々な切口を設け、同じ作品であっても常に新たな視点から鑑賞できるよう工夫しており、現代美術の持つ多様な魅力の発信に努めています。

当館では、この3年弱に及ぶ休館中に、約 300 点の作品が新たに収蔵されました。そこで、リニューアル・オープンを記念した今年度のコレクション展では、新収蔵作品を中心に紹介します。その第一弾では、主に 2010 年代に制作された作品群に焦点を当てながら、修復後の作品のお披露目なども加え、これまで「MOT コレクション」をご覧いただいた方も、今回初めてご覧になる方も、リニューアルした展示室で作品それぞれの魅力に触れていただければ幸いです。



10. 中園孔二《無題》2012



11. 村上康司《雨の像》2016

展覧会概要

会期 2019年3月29日(金) - 6月16日(日) [企画展/コレクション展ともに]

会場 企画展：東京都現代美術館 企画展示室 3F / 1F / 地下2F
コレクション展：東京都現代美術館 コレクション展示室 1F / 3F

主催 東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都現代美術館

企画 企画展：事業企画課 企画係 関直子、藪前知子
コレクション展：事業企画課 事業係 牟田行秀、西川美穂子、藤井亜紀、鎮西芳美

お問い合わせ

東京都現代美術館 事業企画課 企画係 広報班 中島・工藤

TEL：03-5245-1134(直通) / FAX：03-5245-1141

E-MAIL：mot-pr@mot-art.jp

WEB：http://www.mot-art-museum.jp/



東京都現代美術館 リニューアル・オープン記念展

企画展 百年の編み手たち - 流動する日本の近現代美術 -
 コレクション展 MOTコレクション ただいま / はじめまして

本展覧会広報用素材として、11点をご用意しております。
 ご希望の際は下記申込用紙に必要事項をご記入の上、FAX または Eメールにてお申込みください。
 なお、写真の使用に際し、以下の点をご注意ください。
 ■キャプションは、(作家名、作品名、制作年、コピーライト等)を必ずご表記ください。
 ■作品のトリミング、編集、文字載せはお控えください。
 本展記事をご紹介いただく場合には、恐れ入りますが情報確認のための校正原稿をお送りいただき、掲載後は、掲載誌(紙)、HPリンク、DVD、CD等を広報班宛てにお送りください。

媒体名:

種別: TV ラジオ 新聞 雑誌 フリーペーパー ネット媒体 携帯媒体 その他

発売・放送予定日:

御社名:

ご担当者名:

Eメールアドレス:

ご住所:

TEL:

FAX:

ご希望の図版番号に をお付けください。

■ 企画展

- 1. 岸田劉生《椿君に贈る自画像》1914
- 2. 中原實《杉の子》1947
- 3. 鶴岡政男《重い手》1949
- 4. 桂ゆき《抵抗》1952
- 5. 髪嘸《田園》1956
- 6. 横尾忠則《腰巻お仙》(劇団状況劇場) 1966
- 7. 森村泰昌《肖像(少年1、2、3)》1988
- 8. 泉太郎《ステーキハウス》2009
- 9. 加藤泉《Untitled》2013

■ コレクション展

- 10. 中園孔二《無題》2012
- 11. 棚田康司《雨の像》2016

お問い合わせ

東京都現代美術館 事業企画課 企画係 広報班 中島・工藤

TEL: 03-5245-1134(直通) / FAX: 03-5245-1141 / E-MAIL: mot-pr@mot-art.jp

